

ハンディ乗り越える姿 感動呼ぶ

旅先の米国ロサンゼルスで薬書による視覚障害を負い、20年後にバイオリニストとして同地でリサイタルを開いた青年の半生が、今春から高校の英語の教科書に登場し、話題を呼んでいる。この青年は英国を拠点に世界的に活動する川島成道さん(39)。教科書出版社からの依頼で、「日々ベストを尽くす」という人生の原点となった、闘病の地に立つ一本の菩提樹(ぼだいじゆ)の話を自ら書き下ろした。教育現場からは「ハンディを乗り越え、努力する姿が感動的」「生徒が進路を考える材料になる」などの声が上がっている。

【川俣享子】



川島成道さん

川島さんの半生が採用されたのは、高校2年生対象の「Power On English II」(東京書籍刊)。「僕は僕自身でありたい」という題名の英文で、写真付き計12ページに及ぶ。

80年、8歳だった川島さんはロサンゼルス旅行中に風邪薬を服用。副作用による高熱と全身の水ぶくれに見舞われ入院。生存率5%と告げられながら命を取り留めるが、視力は回復しなかった。バイオリンを始めたのは帰国後の10歳の時。拡大された楽譜は4、5年で見えなくなり、耳からの暗譜による猛練習を続けた。桐朋学園大学卒業後、英国王立音楽院へ留学し首席卒業。98年に26歳で国内デビューを果た

高2の英語教科書に半生記

し、4年前にはロサンゼルスでリサイタルを開いた。

採用された文章では、闘病中の川島さんが歩行訓練のため病棟の外にある菩提樹までたどり着くことを目標としていたことや、努力の末に到達した経験が「人生のターニングポイント」となったドラマが記されている。そして、「来る日も来る日もベストを尽くす。それは菩提樹に向かって歩いて行こうとした8歳の時から変わっていない」と振り返る。さらに「アーティストとして自分らしさを聴衆に向かって表現していきたい」「自分探しの旅を一步一步前進していくつもり」と決意をつづっている。

川島さんは「高校生は将来の進路など悩み多き時期。教科書を通じて私の思いが伝わり、光のよくなるものとなることができたら」と話している。